



## 河川環境観察施設・助成金を受けて工事始まる

### 1.

ハンザキ研ニュース№1で私の“ユメ物語”を書かせていただきました。その夢の中に①「オオサンショウウオ人工産卵巣穴観察施設」と言う物を紹介しました。今までに市川の私のフィールドに設置された人工巣穴5基は、全て河川の右岸側にあり、観察するには川を渡っていかねばなりません。また、当研究所や将来的な「あんこ博物館」実現の晩には多くの子供たちに来てもらい、巣穴の中のオオサンショウウオの生態を身近に観察してもらえようようにしたいと考えていたのです。

昨年の末にリバーフロント整備センター刊行の「多自然研究」という雑誌を見ていたところ、表題にある助成金の募集要項が目にとまりました。早速、地元自治体の朝来市へ応募の提案を行いました。その結果、550万円という助成を受けることができたのです。設計には、私の欲張った要望が経費オーバーということになり難航したようですが、なんとか朝来市や兵庫県の応援を受けて実現に至りました。今年度の完工を目指しての工事ですが着工までに時間がかかり、年末になってようやく開始されたのです。

校庭から河川へのアプローチのために急な護岸を掘りこんで緩い角度の階段を付けて、下には子供たちが座って話を聞くための雑壇があり、その前面には観察用のオオサンショウウオの産卵巣穴が設置されます。掘り取る護岸の土を捨てるには経費が掛かりますが、校庭の片隅に山積みするように提案しました。夏に実施していただいた地域の皆さんのボランティア草刈り隊の成果品も山積みにして処理費を浮かすと同時にビオトープにしましたが、今回も小山を築いて、どんな植物が芽生えてくるのか楽しみにしていますし、この山の草刈りはしないで遷移を見ていきたいと思っています。しかし、土手の削り取りによる土砂の量は意外にも多く見えるのですが、固まっていくと低くなるのでしょうか？

この施設が今年度中に完成し朝来市へ寄贈されると、新年度からは使用が可能になります。まずは、朝来市立の12小学校の全員に来てほしいものです。暖かくなれば、水辺の自然にふれ河川生物を観察して豊かな自然が残されていることを楽しんで貰えるでしょう。そのためにもハンザキ研や地域、行政側の受入れ態勢が整わねばなりません。まだ多くのハードルを越えねばなりません、大きな夢の一つがまた実現に向かっていきます。

## オオサンショウウオ“安口ルート”を求めて(1) — はじめに

NPO 法人 地域再生研究センター会員 兼  
日本ハンザキ研究所 研究員 池上 優 一

オオサンショウウオの地方名には、結構興味を引くものがあります。日本ハンザキ研究所のある兵庫県南但馬では、「あんこう」とか「あんこ」という呼び名が残っています。岐阜では「ハザコ」、中国山地南側で「ハンザキ」、北側で「ハンザケ」、九州大分では平安時代の呼び名「ハジカミ」が残っているという文献もあります。

その中で、最も不可解な呼び名が「はだかす」です。兵庫県篠山市(旧多紀郡多紀町)に安口(はだかす)という地名があり、小字に安口谷、安口岩というのがあります。小字の安口岩には、露出の岩が実際にあって看板に、安口岩(あんこういわ)と書いてあります。同じ文字なのに、「あんこう」と「はだかす」と読み方が異なるのは何故でしょうか。安口と書いて「あんこう」と読むのはわかりますが、これを「はだかす」と読むのは、まず不可能だと思います。いったい、どのような経緯があるのでしょうか。

岡山県の東端にある西粟倉村は、オオサンショウウオの多産地吉野川沿いの集落なのですが、多くの人たちがオオサンショウウオのことを「ハダカス」と呼んでいます。当地の郡誌(1815年)等には、「平景清(かげきよ)」が「ハダカス岩」から、大きな「ハダカス(オオサンショウウオ?)一名安康」を放ったという言い伝えが書かれていて、郷土史家の方に聞くと、「ハダカス岩」も「景清神社」も実在しており、神社には今でもお参りする人がいるそうです。とても興味深いことは、上記の西粟倉村にしても、日本ハンザキ研究所のある朝来市生野町市川上流にしても、篠山市安口の近くでも、平家伝説が残っているということです。

岡山県出身の方言研究家の故虫明吉治郎氏が平成3年に発表されている論文には、美作の国(現岡山県西粟倉村?)、丹波の国(現兵庫県篠山市?)、豊前の国(現大分県宇佐市?)で、「はだかす」方言が確認されていますが、そのことには深く言及していません。氏は「ハンザキ・鮫鱈の語誌—大山椒魚という動物の呼び名を考える—」で、オオサンショウウオが鮫鱈と呼ばれる語源研究をまとめられています。

「オオサンショウウオ」のことを「安口」と書いて「あんこう」以外に「はだかす、ハダカス」と読む場合があること、あるいはそのような地名が存在しているということ、それらの幾つかには平家伝説が残っているということ、栃本所長が資料協力や監修をしてくださること、それらが私をして、オオサンショウウオ方言の調査に駆り立てる大きな原動力となっています。今後、文献調査や現地踏査を行い、解り得た事項を紹介したいと思います。

本文をご覧の方、お住まいの場所や近くで、オオサンショウウオのことを何と呼んでいるか、ご存知だったり、お聞きになったりした方、是非ご一報ください。それらも含めて、調査結果を取りまとめる過程で、この紙面をお借りして、掲載させていただきたいと思っています。情報提供等のご協力よろしくお願いいたします。

連絡先:ファックス 日本ハンザキ研究所 079-679-2939  
手紙 〒679-3341 兵庫県朝来市黒川 292 日本ハンザキ研究所

## “アンコウ・ルート”

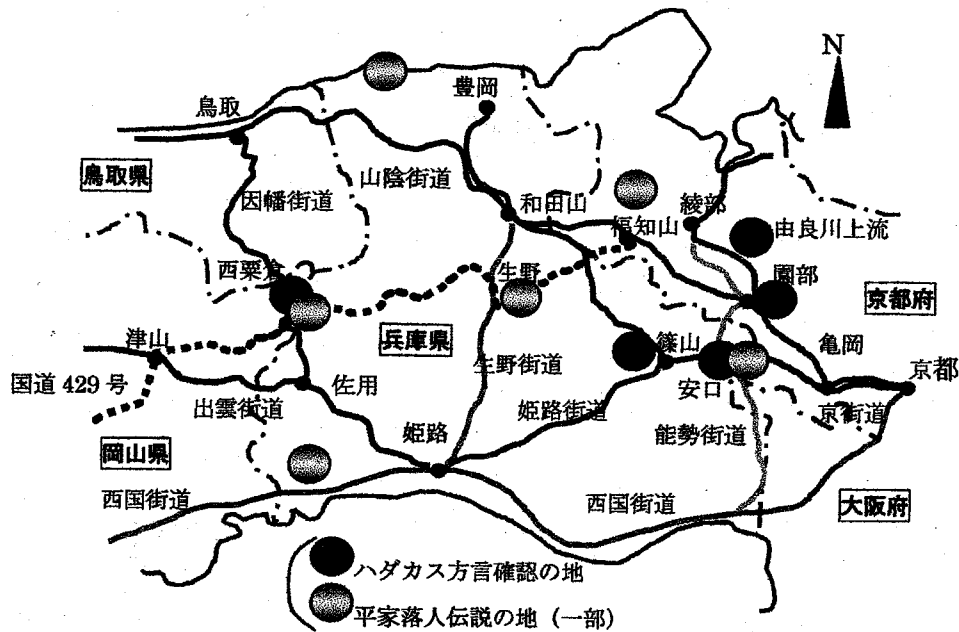


図 「ハダカ」方言の確認地と旧街道他

### アンコ淵“黒主”の年間行動 ①

本格的にハンザキ研が動きだしたのは、4月頃からでした。その頃にはハンザキ橋から見下ろすアンコ淵にはすでに黒主の姿がありました。前にも書きましたように黒主は夜間調査では殆ど姿を見せないのに、明るくなる午前5時すぎになると巣穴から顔を出してきます。この個体は2004年7月にハンザキ研から少し上流で合流する長野川で登録された個体で№977です。4か月後にはハンザキ研のあるG区に下り、さらに1か月後には再び長野川で確認されていました。それから1年4か月後の2006年4月にはG区のハンザキ橋下流側にあるアンコ淵にある巣穴に納まりました。それから現在までこの巣穴を出入りして暮らしていますが、9月13～15日には集まってきた3個体のオスを咬み散らしながらメスを迎えて産卵させたようです。確認できなかったのは、巣穴の出入口が黒主の頭で塞がる程小さい上に奥行きが3mは十分にある深い横穴であったからです。

それでも、8月からは夜間照明を付けて観察をしてきましたが、黒主の行動には明らかな変化がありました。9月上旬までは、もっぱら昼行性で午前5時30分頃にキチンと挨拶に顔を出してきます。5月の夜間調査でG区の最下流部で測定しましたが、最初の全長測定値が1,000mmで、この時は995mmでした。体重は600g減って6.4kgでした。

その1月後には昼過ぎに出てきたところを採捕しそなたたのですが、ハンザキ橋直下の枝葉溜まりに逃げ込んだところで捕まえました。500gさらに減量していました。

## ハンザキ研日誌 2006年12月

- 4日：兵庫県文化財保護審議会・歴史文化遺産の活用について、「あんこうミュージアム」構想に光が・・・
- 8日：日本工科専門学校の学外実習で東播海岸の人工養浜海岸見学，国交省姫路河川国道事務所・東播出張所員のガイドで。残念ながら生物の再生は出来ていない
- 11日：国交省豊岡河川国道事務所と出石川のオオサンショウウオについて会議  
：国交省姫路河川国道事務所にて環境問題懇談会，植物学の浅見佳代先生と
- 12日：市川河川会議，市川はオオサンショウウオのサンクチュアリーであることを強調する。他の河川には無い特徴である。
- 18日：オオサンショウウオ調査(GS-224)～21日，今月初めての調査で，11月30日以来でずいぶん長い間ハンザキ研に来なかったという実感であった。  
：蔵書や資料などの収容のために自宅近くに貸りていたガレージの最後の荷物を搬出する。これで一つの整理が終わったと言うことになる。  
：リバーフロント整備センター助成による“河川環境観察施設”の工事開始，生野町コマドメ建設，今年度内の完成予定  
：パソコンとデジ・ビデオカメラの寄贈がある。あちこちから攻めたてられている感じがする。私は作文用のワープロだけあればと思っているのですが・・・  
無免許・無携帯・無パソコンという現代の3種の神器を持たない“生きている化石”的人間のぼやきでしょうか・・・
- 24日：オオサンショウウオ調査(GS-225)～28日，昨年今頃には積雪70センチであったことを思うと，今年は暖冬で時に雪花が舞うことはあっても，積雪0である。

今月は2回9日間の出勤？で，来訪者を含めて総計41人の利用がありました。

今年一年間での利用状況は32回177日，総計1,042人でした。

2005年8月の開設以来では38回194日，総計1,076人になります。

### ハンザキ所長のツブヤ記録

ハンザキ研での初めての冬を経験した，昨冬の厳しい低温と大雪の洗礼を受けた事を考えると，今冬の暖かさは少々物足りない気がする。陽が射すとポカポカと春のような陽気になるが，陽が陰るとやはり寒風が肌を刺す。着工が遅れていた河川環境観察施設の工事では，暖冬で大助かりだ。打設したコンクリートが凍結したら強度が出せなくて，崩れたりしたら大変だと思っていました。しかし，現場の傍らには毛布で覆われたコンクリートのサンプルが置いてあり，強度のテストをするということで一安心しました。



写真 1 校庭東側護岸の工事前



写真 2 校庭を掘り込む範囲の杭打ち



写真 3 掘削開始



写真 4 工事中的様子



写真 5 西粟倉村のハダカス岩



写真 6 篠山市安口(はだかす)の安口岩